

墨水会だより

(旧府立第七中学校) 都立墨田川高校全日制同窓会 発行責任者 泉 妻 秀 一

母校の地元向島は、学校創立期の大正10年頃は、東京府に属し南葛飾郡寺島村と呼ばれていたが、関東大震災後の昭和7年、震災後の人口増加が著しい南葛飾、南足立、北豊島、荏原の隣接5郡を、市内の旧15区に加え、新たに20区(品川、目黒、荏原、大森、蒲田、世田谷、渋谷、淀橋、中野、杉並、豊島、滝野川、王子、荒川、板橋、足立、向島、城東、江戸川、葛飾)が設置され、10月1日35区の誕生となった。

この拡張の結果多摩3郡以外の郡は廃止され当時の府立七中の地区名称も向島区寺島町に改められ、昭和22年3月戦後の東京が現在の23区に統合されるまで続き、現在に至っています。

現名称の墨田区はお隣の本所区と合併した時付いた名称です。

東京でもこの地域は江戸期より歴史の古い街ですが、明暦の大火、元禄江戸地震、安政東海地震、江戸地震、関東大震災等何度か大災害や大火災に遭遇しているため、古い遺跡や名所がその都度破壊され現在残っているものが少ない地域でありました。

特に東京は昭和39(1964)年の東京オリンピックの際、都市のインフラ整備と街区の改造が行われ、オリンピックの会場が多く造られる新宿を中心として、西部地域の開発を重点目標として整備を続けて行きました。

そのような関係で、東部地域特に下町は戦後東京の整備計画から見放されたような状態が続いたと思います。

下町の中でも映画産業の発展によって賑わった浅草の衰退が目立ちました。

ところが6年前、業平・押上地区に世界最高の高さを誇る電波塔スカイツリーが完成すると逼塞していた下町が少しずつその勢いを回復してきました。

特に浅草の復活は見事で、浅草観音堂の繁栄ともあいまって、街からスカイツリーが手の届く場所に見える効果と、多くの飲食店や酒房なども揃っている関係で、塔見物のお客様が浅草に集まっている状況になっています。

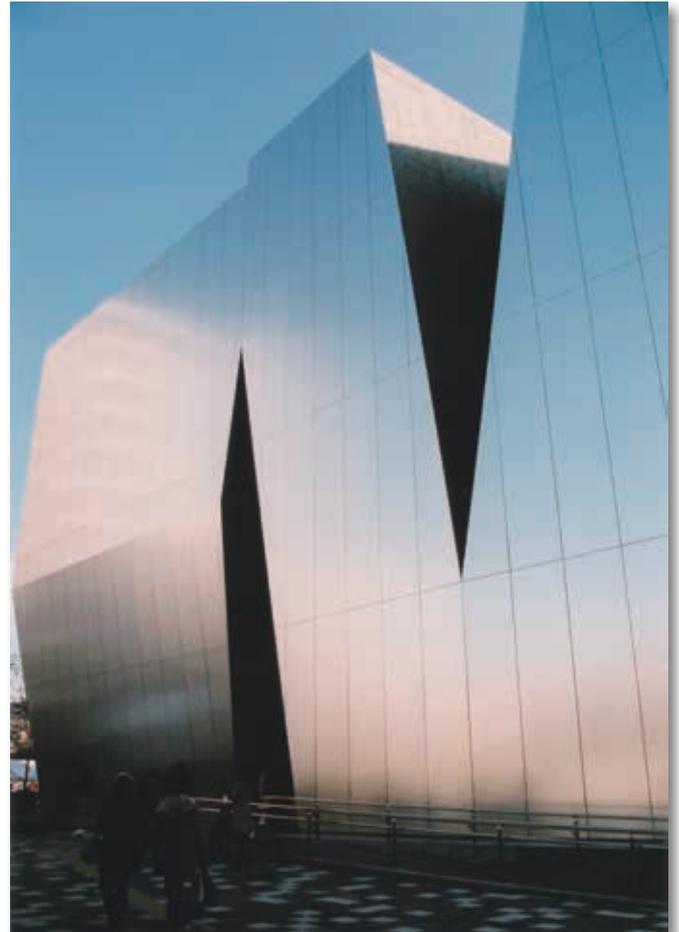
墨田区でもこのスカイツリーの観光客を他の区内名所にも呼び寄せたいと考え、以前計画がありましたが、予算等の問題で建設が凍結されていた、浮世絵師 葛飾北斎のコレクションを展示する美術館を建設することになり、昨年完成し11月22日オープンしました。

この建物は女流建築家でヴェネツィアビエンナーレ金獅子賞を受賞した妹島和世さんが設計しました。

墨田区にまた一つのモニュメントの誕生です。

建物は全体がアルミパネルで覆われ、その銀白に輝く外壁に近隣の風景が投影され、その切れ込んだトライアングル空間が黒く沈み、かなり斬新なデザインです。

建築はスリットで分割されており、地上階は回りが通路になっ



撮影 井上 常一

ているので、建物全体に裏がなく、素晴らしい構造体であると思います。

すみだ北斎美術館によれば、コレクションは世界に誇れる第1級の作品で、北斎作品収集家であり研究者であった故ピーター・モース氏が所蔵していた世界的に質の高いコレクションや、日本の北斎研究第一人者、故榎崎宗重氏から寄贈された貴重な資料が収集されています。

所在はJR両国駅、都営大江戸線両国駅より徒歩5分

☎130-0014墨田区亀沢2-7-2(緑町公園内)

☎5777-8600(ハローダイヤル)

常設展の観覧料 一般400円 高校、大学生、65歳以上300円

墨田川3回 井上 常一



ご挨拶

墨水会会長 墨田川 8回

泉妻 秀一

墨水会会員の皆様におかれましては、お健やかに新しい年を迎えられたことと拝察申し上げます。一年の経過が真に早く会報23号で会長就任一年目のご報告をさせて頂いたばかりの感がありますが、早くも二年目の活動報告を、墨水会だより24号をとおしてお届けするのときを迎えました。

この一年を顧みますと、世界では、英国の国民投票でEU離脱派が勝利したこと、米国内で泡まつ候補と言われていたトランプ氏が直前まで当選確実と言われていたクリントン元国務長官を破って大統領に決定したことが大きな驚きでした。又、世界各地でのテロの続発、今や此処なら安全と言う場所が無くなってしまいました。日本に対してはイスラム国はテロの対象国であることを明言しております。第二次世界大戦における日本の特攻隊志願兵を思わせる自爆テロ志願の若者が急増しており収まる気配は全然ありません。世界全体が地域ごとに共同体を作り参加国全体を豊かにすべく、欧州経済共同体(EU23カ国)、北米自由貿易協定(NAFTA3カ国)、アジア経済共同体(ASEAN7カ国)等を作り、各国が共存

しながら国家の利益を追求しようと言う動きに対して、自分の国さえ良ければよいという保護主義勢力が世界各国に台頭し各国の政治勢力も大きく変動しつつあります。各国の難民受け入れ拒否もその流れです。

又、この一年は環境破壊が原因とされる気候変動による台風の巨大化、豪雨、洪水災害による世界各地での大災害の報告が届いております。

日本国内を見ると、6年経つたのに東日本大震災・福島原発事故からの復興は遅々として進んでおりません。それに加えてこの一年でも熊本地震、糸魚川での強風もたらした大規模火災等で多くの被災者を出しています。

スタートしたマイナンバー制度も多くの問題点が指摘され本格活用にはかなり時間がかかりそうです。

このような世情の中ですが我々の母校・墨田川高校は上村校長のもと都内でも少ない進学(指導)重視型単位制高校として進めて来た学校改革を着実に大きな成果を上げておられます。学校行事では4月の入学式に始まり、5月には体育祭、9月には文化

祭、11月は合唱祭、3月には卒業式、七高万博と続きます。これらの学校の催しには墨水会からも役員・幹事が出席し生徒諸君の日頃の活動を拝見しております。また毎年卒業式終了後の3月下旬にかつしかシンフォニーヒルズにて吹奏楽部のスプリングコンサートが開催され卒業部員も参加して、大変賑やかで、素晴らしい演奏会が開かれます。OB各位のご来場をお待ちいたします。

また私共墨水会として今後取り組むべき課題は従来と変わることなく同窓会本来の役割である次の2点に絞られます。

①母校の各種活動を美汀会・墨汀会の皆様と協力して側面からバックアップすること。

②会員相互の親睦と融和を計ること。
また、これに加えることとして、皆様と協力して運営しております軽井沢の「七生寮」、館山の「栗水寮」の二寮の維持管理を今後どうして行くかということが有ります。一昨年夏に立ち上げた「二寮運営検討委員会(山内副会長が委員長)」で二寮の現地調査も含めて検討を進めております。

又、平成28年度の総会は10月1日(土)に先生方・美汀会・墨汀会のご来賓各位をお迎えして賑やかに開催されました。今回も前年度同様開催時間を夜から昼に変更し、遠方の方、家庭の主婦の皆さんから参加し易くなったと喜ばれました。また総会・懇親会を盛り上げ、皆さん楽しんで頂く為、

参加会費を大幅に下げて皆さんが参加し易くしました。今まで男女とも8千円であった会費を男性5千円、女性3千円とし、さらに10周年単位の周年会員及び29歳以下の若手会員は男女それぞれは3千円、2千円といたしました。特に周年会員の皆様には総会の中でクラス単位のテーブル設定を行いクラス会気分総会に参加して頂き多くの方々の初参加を得ましたお陰で例年に比べて2倍近い参加者となりました。

また10月23日(日)には、杉並公会堂にて第24回東京校歌祭が開催され、墨水会会員に加えて美汀会、墨汀会の皆様にも多数参加して頂き90年以上歌い継がれてきた幸田露伴作詞、弘田龍太郎作曲の名歌「隅田の川は我師也」を応援歌とともに歌い上げ他校の皆さんに披露しました。また役員諸氏には本年度も年間を通して、常任幹事会、広報委員会、各種学校行事、美汀会、墨汀会等の集まりに積極的に参加し、活発に活動して頂きました。

結びに会員の皆様には墨水会の運営に深いご理解を頂き会の運営に度々ご寄付を頂戴し真に感謝に堪えない次第であります。紙上を借りて会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

本年も母校のため会員皆様の格段のご協力をお願い申し上げます。また総会・懇親会を盛り上げ、皆さん楽しんで頂く為、



七高のいま

校長 上村 肇

墨水会の皆様には、本校の教育にご支援をいただいておりますことを、厚く御礼申し上げます。今年度も、いろいろなところでお会いした方から、ご自身やご家族が卒業生であることをお話しいただいております。七高に誇りをもっていらっしゃることがよく分かります。

(理解力の高い生徒たち)

本校の生徒が高い理解力をもっていることは、授業以外のさまざまな場面でも示されています。昨年末に、高等学校文化連盟の茶道部門の中央大会が東京国立博物館の庭園にある茶室で開催されました。茶道部の生徒は無駄な動きがなく、落ち着いて丁寧にお点前を披露していました。また、茶道具などを説明する生徒の口上も、分かりやすく話していて、内容をよく理解して話していることがうかがえます。

年頭には、吹奏楽部が東京都高等学校吹奏楽連盟のアンサンブル・コンテストに出場しました。私は、木管の部を聞きに行きました。本校の木管八重奏は、アレンジの妙をよく理解して演奏し、金賞を受賞しました。

このように、生徒は、頭を使って、高い理解力で物事に取り組んでおり、授業の理解についても高い水準が期待できます。

(グループ作成の学力検査問題)

墨田川高校の入学者選抜では、学力検査問題のうち国語、数学、英語の三つの教科では、進学重視型単位制高校三校(墨田川、新宿、国分寺)が共同で問題を作成し、一部の問題を各学校で差し替えて出題しています。都教委が作成している問題よりも難しくなっています。合格して入学してきた生徒は、この問題を解いてきたのです。グループ作成の問題は難しそうだと、本校への出願をためらう中学生もいるようですが、入学してきた生徒については、学習意欲の喚起という点で効果が出ていると考えます。

(校長として考えていること)

私は、墨田川高校を、引き続き、下町の土気の高い学校にしていきたいと考えています。進学重視型の学校ですから、学力を高めて、希望の進路を実現していくことを、まず考えなければなりません。生徒には、規律正しい学校生活を送り、学力を積み重ねていくことを指導しています。各教科の先生方の授業の工夫は、落ち着いた学校生活の中で成果をあげています。

しかし、同窓生や地域の皆さんの期待は、大学合格で終わるものではないと思います。生徒たちが次の時代を担っていく人

材となっていくことを期待していただいているのだと思います。

こうした能力は、年齢に応じて様々な経験をすることで培われるのだと考えます。体育祭では、伝統の「旗」が健在です。同窓生同士で自己紹介をするときに、どの族に所属していたかを話すのは七高の独特の伝統です。学校への帰属意識を高めながら、共同作業で応援を創っていくことは、将来の有為な人材を育てていく機会になります。部活動でも、生活習慣を整え、系統的な指導を行っていくことによって、優秀な成績を収めています。勉強のできる中学生が高校の部活動で充実した活動をしたかと思つたときに、選んでくれる学校であつてほしいと思います。このように、学業に加えて、学校行事と部活動を充実させることで、有為な人材を育てていきます。

(情報モラル推進校)

今年度、墨田川高校は、東京都教育委員会から、情報モラル推進校の指定を受けています。昨秋には、「スマホ・ミーティング」として、本校一年次生全員が小学校に出かけて、小学生に情報機器の安全な使用方法を指導することを、第一寺島小学校、第二寺島小学校、第三寺島小学校の三校で行いました。本校生徒は、小学生からの質問に対して、教育的な配慮を考えながら、適切に対応していました。この様子は、テレビ東京の番組で紹介されましたので、ご覧になられた方もいらっしゃると思います。

(成人となる年齢の問題)

さて、少し角度を変えて、高校生にかかわる法改正について述べてみたいと思います。

公職選挙法の改正により、選挙権が与えられる年齢が十八歳となり、昨年夏以降の公職選挙では十八歳の誕生日を迎えた高校生は有権者となりました。選挙権がこうなると、法律の整合性ということからは、民法をはじめとする様々な法律での成年についての規定をどうするかが問題になってきます。

たとえば、民法の成年の規定を十八歳に改めるとなると、調整が必要なのがたくさん出てくるのが予想されます。未成年者には、これを保護する制度が設けられています。十八歳を成年とした場合、十八歳、十九歳の若者に対しての、こうした保護の規定がなくなつてしまいます。具体的な問題としては、マルチ商法などの消費者被害が心配されます。

これまでも、家庭科や公民科で消費者教育を行ってきました。二十歳になるまでには、高校を卒業してからしばらく時間がありますから、その間の成長も期待できました。しかし、高校在学中に十八歳を迎えて成人となつてしまうと、構造が違つてしまいます。

また、「保護者」の制度がどうなるかという問題があります。十八歳を成年とした場合、学校の中に成人した生徒と未成年の生徒がいるようになります。保護者の制度をどのようにしていくかということは、文部科学省や都道府県教育委員会にもよく検討していただかなければなりません。

高校生をめぐっては、こうした問題が生じるのが心配されます。ご家庭や職場などでも何か具体的な対応が必要になるかもしれません。

平成28年度

墨水会事業報告

平成27年総会(10月3日) ～平成28年9月30日



墨田川10回
難波 直人

1. 第93回墨水会総会

平成27年10月3日 於 上野東天紅

一般会員54名、周年会員4名、現職員3名、旧職員3名、美汀会6名、墨汀会3名、合計73名のご出席をいただき、午後4時より総会が開催されました。泉妻会長の挨拶の後、上村肇校長による自己紹介と学校の活動状況等のお話があり、最後に美汀会会長の挨拶の後議事に入り、事業報告、会計報告、監査報告が行われ、最後に新役員の紹介があつて、全ての議事を無事終了しました。その後懇親会にうつり、アトラクション(楽器演奏)が行われました。又各期の紹介や活動報告が行われ、最後に全員で校歌、応援歌を斉唱し午後7時すぎに散会しました。

2. 広報委員会

平成27年10月22日 於 同窓会室

7名の委員が出席して、5年に1度発行される同窓会名簿についての話し合いを行いました。(発行するか否か、業者はどこにするのか等)

3. 広報委員会

平成27年10月31日 於 同窓会室

3名の委員が出席し、同窓会名簿発行について話し合わせ、作業が行われました。

4. 校歌祭

平成27年11月3日 於 杉並公会堂

今回は杉並公会堂に場所を移して2回目となります。会場が遠くになったにもかかわらず40名以上の参加者がありました。今回は13回卒の横井副会長による学校紹介の後、18回卒の鈴木さんの指揮、高校2年生の高崎さんのピアノ演奏によつて応援歌・校歌を声高らかにうたいあげました。

5. 広報委員会

平成27年11月16日 於 同窓会室

6名の委員が出席し、同窓会名簿発行について、又墨水会だより発行にむけて話し合わせ、資料の整理等を行いました。

6. 広報委員会

平成27年12月4日 於 同窓会室

7名の委員が出席し、(株)サラトの担当者をはじめ、同窓会名簿発行、墨水会だより発行の打合せを行いました。

7. 第1回常任幹事会兼忘年会

平成27年12月12日 於 向島チエリー

28名の出席者のもと、来年度の総会についての話し合いが行われ(開催時間・参加費等)しました。その後忘年会にうつりおいしい料理を楽しみながら楽しいひと時を過ぎ散会しました。

8. 広報委員会

平成27年12月17日 於 同窓会室

9名の委員が出席し、墨水会だよりの記事の割り振りや原稿の校正等の作業を行いました。

9. 広報委員会

平成28年1月13日 於 同窓会室

6名の委員が出席し、墨水会だよりの最終校正と同窓会名簿についての話し合いが(株)サラトの担当者をまじえ、行われました。

10. 役員会

平成28年3月8日 於 大将

14名の出席者のもと、総会、懇親会、文化祭、寮問題、役員会の今年度の役割分担等について話し合わせました。

11. 寮検討委員会

平成28年4月7日 於 大将

6名の委員が出席し、今後の寮の運営について話し合いました。

12. 総会検討委員会

平成28年4月12日 於 大将

7名の委員が出席し、総会の開催時間の変更(総会PM1時～2時、懇親会PM2

時～4時)や参加費を一般会員の男性5千円・女性3千円等にして、参加しやすくする案が決まりました。

13. 第2回常任幹事会

平成28年4月18日 於 会議室

31名の出席者のもと、27年度総会・懇親会の決算報告が行われ、その後平成28年度の総会・懇親会について、又寮運営について話し合わせました。最後に事務の小荷田さんの給与の変更(月6千円を8千円に、冬のボーナス13,200円を2万円に)について提案があり、了承されました。

14. 役員会

平成28年6月6日 於 大将

11名の出席者のもと、(株)七星会の理事、評議員選出について、又総会、懇親会、文化祭、校歌祭について話し合わせました。

15. 第3回常任幹事会

平成28年7月11日 於 会議室

28名の出席者のもと、総会・懇親会について話し合わせました。又学校より生徒の関東大会・インターハイ参加に関して寄付依頼がありました。

16. 第4回常任幹事会

平成28年9月1日 於 旧食堂

29名の出席者のもと、総会、懇親会、文化祭について話し合わせました。学校より30万円の寄付に対してお礼の挨拶があり、最後に総会の往復葉書が各期の幹事に必要枚数渡されて散会しました。

その他

学校運営連絡協議会

〔平成27年11月11日〕

泉妻会長・清澤副会長出席

楽水寮視察

〔平成27年11月14日～15日〕

泉妻会長と5名の寮検討委員で寮に一泊しながら、管理人さんと話し合いを行いました。

七生寮視察

〔平成27年12月4日〕

海谷顧問・谷澤副会長で火災報知機の設置確認及び天井等の工事について業者をまじえ点検をしました。

美汀会新年会

〔平成28年1月9日〕

役員6名が出席しました。

墨水会だより23号・2016年度版名簿完成

〔平成28年2月22日〕

卒業生・新入生・同窓生に配布されました。

学校運営連絡協議会

〔平成28年3月14日〕

泉妻会長・清澤副会長出席。

七星会理事会

〔平成28年3月25日〕

泉妻会長はじめ理事3名が出席しました。

楽水寮視察

〔平成28年4月5日〕

井上顧問はじめ3名で訪問し、網代管理人と今年度の管理契約を行いました。

入学式

〔平成28年4月7日〕

泉妻会長、海谷・井上両顧問が出席しました。

七生寮視察

〔平成28年5月12日〕

海谷顧問はじめ3名が参加し、星のやと今年度の管理契約を行いました。

美汀会歓送迎会

〔平成28年5月21日〕

役員7名が出席しました。

学校の生徒部との打合せ

〔平成28年6月30日〕

文化祭参加に関して、生徒部の佐々木先生と谷澤副会長が打合せを行い、今年度も昨年同様の規模で玄関横（エレベーター前）にて、展示等を行う事になりました。

七星会理事会・評議委員会

〔平成28年6月30日〕

墨水会より理事長・泉妻会長、理事として井上顧問、海谷、清澤、山内副会長が就任、又評議委員とし

て海谷顧問、難波、横井、竹鼻、小川副会長が就任しました。又寮の維持・管理については例年通りとすることになりました。

楽水寮視察

〔平成28年7月21日〕

谷澤・清澤両副会長とで、網代管理人と夏期休業中の宿泊について打合せを行いました。又4月期より6月までの宿泊代精算を行いました。

七生寮開寮準備

〔平成28年7月24日・25日〕

谷澤・清澤・竹鼻・加藤・山内副会長と知人の板垣さんによって清掃・草刈・布団整理等、開寮に向けての作業を行いました。

七生寮開寮

〔平成28年7月26日～8月22日〕

大人96名、子供7名の計103名の利用がありました。今年度は都合により全員素泊でお願いしました。

七生寮視察

〔平成28年8月21日・22日〕

今年度は18名の参加者があり、トノボの湯に入ったり、塩壺温泉に行ったりしてゆっくりした後、例年通り食堂で懇親会を行い、楽しいひと時を過ごし、翌日散会しました。

七生寮開寮

〔平成28年8月22日・23日〕

谷澤・清澤副会長と田中・古川・丸山3氏の墨汀会役員の協力によって開寮作業を行いました。

文化祭

〔平成28年9月10日・11日〕

前日の準備には井上顧問をはじめ5名の役員が参加し、1日目は8名の役員が、又2日目は7名の役員が参加し、壁に2寮の大きな写真をはったり、くじで当たった人に宮部みゆきさんの本を贈呈したりして、墨水会の宣伝活動を行いました。

七生寮視察

〔平成28年9月15日〕

井上顧問・谷澤・竹鼻・清澤副会長とでピアノ搬入作業を行い、ホールの模様がえを行いました。又星のやと駐車場について話し合いがなされました。例年通りクーリングの精算を行い、七生寮を閉じました。

東天紅訪問

〔平成28年9月26日〕

7名の役員が参加し、係分担の確認や東天紅の担当者との打合せを行いました。

平成27年度 墨水会会計報告

開始残高

平成27年7月1日

1 資産の部	(単位:円)	
定期預金(一般口座)	16,000,000	
〃(寄付口座)	0	
普通預金(一般口座)	5,224,915	
〃(寄付口座)	3,904,519	
現金	166,069	
在庫品	0	
資産の部合計		<u>25,295,503</u>
2 繰越の部		
繰越金	25,276,509	
前期剰余金増加額	18,994	
繰越の部合計		<u>25,295,503</u>

閉鎖残高

平成28年6月30日

1 資産の部	(単位:円)	
定期預金(一般口座)	16,000,000	
〃(寄付口座)	0	
普通預金(一般口座)	4,645,882	
〃(寄付口座)	5,181,917	
現金	152,485	
在庫品	5,116,000	
資産の部合計		<u>31,096,284</u>
2 繰越の部		
繰越金	25,295,503	
当期剰余金増加額	5,800,781	
繰越の部合計		<u>31,096,284</u>

監査報告書

墨水会定時総会議長 殿
平成28年10月1日

平成27年度墨水会収支計算書及び諸帳簿関係書類を監査した結果、その数字は正確であり、かつ正当であった。
各帳簿、領収書、証拠書類の保存整理も整然としてあったことを御報告申し上げます。

墨水会
会計監査 宮本 雄 司
会計監査 石井 温

収支計算書

(平成27年度)

平成27年7月1日から平成28年6月30日まで

1 収入の部	(単位:円)	
科目	金額	摘要
27年度卒業生入会金	2,568,000	321名×8,000円
名簿代(27年度卒)	1,284,000	321名×4,000円
名簿販売	13,320	3冊
寄付金	1,290,350	68名と2団体
利子	29,532	
当期収入合計(A)	5,185,202	

2 支出の部		
科目	金額	摘要
墨水会会報費	507,600	2,300冊
総会懇親会補助費	167,957	案内葉書1,500枚
名簿代	2,293,479	1,600冊
校歌祭費	111,648	参加費、運送費
文化祭費	27,731	準備費
通信費	186,821	切手代、郵送代
会議費	398,492	常任幹事会、広報委員会、役員会
寮関係費	8,600	七生寮視察補助
渉外費	69,146	美汀会、墨汀会関係
事務委託費	691,800	小荷田さん、谷澤さん給与・交通費
雑費	37,147	事務費他
当期支出合計(B)	4,500,421	

3 当期剰余金の部

科目	金額	摘要
当期収入合計(A)	5,185,202	
当期支出合計(B)	4,500,421	
当期収支差額(A)-(B)	684,781	
期首在庫品(C)	0	
期末在庫品(D)	5,116,000	1,279冊×4,000円
当期剰余金 A)-(B)-(C)+(D)	5,800,781	前期剰余金 18,994

繰越金計算書

前期繰越金	25,295,503	
当期剰余金	5,800,781	
次期繰越金		31,096,284

以上のとおり御報告申し上げます。

平成28年10月1日

墨水会 会長 泉 妻 秀 一
墨水会 会計 谷 澤 尚 樹

平成28年度、第24回校歌祭が10月23日(日)13時より杉並公会堂にて開催されました。当日は12時30分に集合し、約20分全体で練習しました。時間もなかったのですが、無理しながら応援歌、校歌を練習しました。約40人の参加者で最初よつと声がかたいなあと思いましたが、そのうち体もほぐれ、表情も明るくなって声伸びやかにできるようになりました。

13時20分より本番です。最初に横井副会長よりご挨拶と曲の紹介がありました。伴奏は平成27年度卒の宇佐美琴音さんです。今日までにきちんと練習して私との合わせでも要求に
初めて応援歌です。現役時代ほとんど歌ったことがない人がいたりしましたが、声をそろえて元気よく歌いました。この応援歌は中島馨先生作詞、加藤隆志先生作曲で、七高生のための勢いのあるいい曲です。
いよいよ校歌です。斉唱で歌います。2番までは楽譜通りの速さで、3番は少しゆったりと歌い、4番は胸を張って堂々と歌います。最後の「不断の努力、学ばなん」は皆晴れやかな表情で力強く歌うことができ、私の腕に鳥肌が立ちました。この校歌は私たちの誇りであり、私たちが前に進むための道標となる素晴らしい校歌です。
今、現役は校内で合唱祭というのがあり、1年が校歌の1、4番を、2年が2、3番を混声四部で歌います。皆合唱で校歌を歌えるのです。若い卒業生が多数参加してくれたら先輩たちに練習してもらって合唱にも挑戦したいものです。
第25回校歌祭は10月1日(日)にサンパール荒川で行われる予定です。たくさんのご参加をぜひお願いいたします。

東京校歌祭について

東京校歌祭実行委員 墨田川18回 鈴木 憲康



て私との合わせでも要求に
初めて応援歌です。現役時代ほとんど歌ったことがない人がいたりしましたが、声をそろえて元気よく歌いました。この応援歌は中島馨先生作詞、加藤隆志先生作曲で、七高生のための勢いのあるいい曲です。
いよいよ校歌です。斉唱で歌います。2番までは楽譜通りの速さで、3番は少しゆったりと歌い、4番は胸を張って堂々と歌います。最後の「不断の努力、学ばなん」は皆晴れやかな表情で力強く歌うことができ、私の腕に鳥肌が立ちました。この校歌は私たちの誇りであり、私たちが前に進むための道標となる素晴らしい校歌です。
今、現役は校内で合唱祭というのがあり、1年が校歌の1、4番を、2年が2、3番を混声四部で歌います。皆合唱で校歌を歌えるのです。若い卒業生が多数参加してくれたら先輩たちに練習してもらって合唱にも挑戦したいものです。
第25回校歌祭は10月1日(日)にサンパール荒川で行われる予定です。たくさんのご参加をぜひお願いいたします。

第94回墨水会総会

平成28年10月1日 於 上野東天紅 墨田川15回 竹鼻 宏子



上野東天紅において、今年度は午後一時より総会、二時より懇親会という時程で開催されました。又会費も値下げして一般会員の男性は五千円、女性は三千円、周年会員の男性は三千円、女性は二千円にする事になりました。その為か前回に比べると約二倍近くの多くの方の出席を得る事が出来ました。(一般会員五十二名、周年会員六十五名、美汀会七名、墨汀会三名、現職員六名の合計百三十三名)

総会は山内副会長の司会により進められ、泉妻会長、上村校長、林美汀会会長のご挨拶の後議事に入り、例年通り事業報告、会計報告、監査報告が行なわれ、全て承認されて終了しました。

その後、懇親会へと移行し、墨田川プラスバンドの指導者であります鶴飼奈民先生率いる「ヴィーヴ！サクソフォークワルテット」の素敵な演奏が花を添え宴を盛り上げて下さり、和気あいあいの内に校歌、応援歌を高らかに歌いあげ終了致しました。

毎年、会費の事、余興の事など、いろいろ試行錯誤しながら開催しておりますが、皆さんに喜んで出席頂ける様、役員一同邁進する所存ですが、皆さんの良いアイデア等ありましたら参考にして行きたいと思っております。是非ご意見、ご要望などお聞かせ頂ければ幸いです。



学校運営連絡協議会について

墨田川17回 清澤 健一



平成12年進学重視型単位制高校になった時にスタートした学校運営連絡協議会は、平成28年度PTA、自治会、地元財界人、地元中学校長、同窓会、教育専門家の委員と学校側からは、校長、副校長と教務、生徒指導、進路指導、総務の各部の主幹教諭から構成され、年3回開催されています。同窓会から泉妻会長と私の2名が参加しています。

墨田川高校では国公立大学や、難関私立大学の進学が伸びていることもあってさらに伸ばそうが主な議題です。現在全都から受験できるため大田区や板橋区からも通学していますが理由を聞くと学校の雰囲気が良いとのことでした。現在は足立区、葛飾区の生徒が多いのですが他の区からの生徒が増えることが予想されています。

生徒の男女比は2対3で女生徒が多くなっています。推薦と一般人試両方とも成績順で決めると女子が多くなってしまったとのことです。

男女定数が決まっていたかつての墨田川高校は、男子生徒が多く大学入試間際に猛

勉強して突破した人も多かったのですが、今は3年間コツコツと勉強して希望の大学に進学させる方針です。

女子生徒が多いことは女子生徒が国公立大学等の進学を目指す人が少ない。推薦合格者が多く一般人試と比べて早く合格するなど入試の雰囲気、落差が大きく全体の進学にも影響を与えかねないことなどが議論されています。

墨田川高校は面倒見のよい学校、塾に行かなくてもよい学校との評判があり実績も出来てきたので女子生徒にも大きな進学希望を持たせ、学校全体が大きく伸びることを期待しています。

高校名	大学別	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
墨田川	国公立	現年 過年	2 0	7 2	5 3	11 0	17 0	16 39	22
	早慶上理	現年 過年	17 2	9 7	9 1	19 0	24 0	51 0	39
城東	国公立	現年 過年	13 8	17 3	9 6	— —	25 2	12 6	16 8
	早慶上理	現年 過年	12 12	25 3	25 6	— —	20 6	21 7	26 10
小松川	国公立	現年 過年	21 2	31 6	25 8	— —	— —	63 74	37 42
	早慶上理	現年 過年	10 10	18 4	12 9	— —	— —	74 14	42 6
両国	国公立	現年 過年	48 12	54 14	44 17	84	71	74	65 8
	早慶上理	現年 過年	70 19	64 34	77 20	96	96	113	144 25

寮問題の検討状況について



墨田川30回 山内 雅哉

財団法人七星会が保有する2寮のあり方について、現在、寮問題検討委員会で検討しています。考え得る3つの選択肢(1)従前どおり2寮を維持する、(2)1寮を売却して1寮のみを維持する、(3)2寮とも売却して代金を在校生の活動資金にあてる)のうち、最後の(3)は、財団法人が基本財産を失って解散となり、残余財産は地方公共団体等へ寄付せざるを得ない結果となるので、現実的ではない。

そこで、①か②のどちらを採るべきかという議論になっていますが、検討委員会の委員の意見は、①2寮の維持に要する負担を財団法人がこのまま続けても、10年程度は継続させることが可能であり、この間に利用料収入の拡大をはかり、先輩方が守ってきた2寮をできる限り維持する、学校には在校生の利用復活を働きかけるべきだという考え方と、②在校生の利用復活が望ましいが、それを前提として考えることは難しい、現状では一方の寮を売却し、その売却代金で他方の寮を充実させ、1寮に集中することが現実的である、とい

う考えとが拮抗しています。さらに、後者の中にも、年間を通じて利用可能な館山「楽水寮」を残すべきとの意見と、軽井沢の星野温泉に近接する立地を考えて「七生寮」こそ残すべきだという意見があり、方向性を見いだすには至っていません。引き続き検討を重ねますが、その際、在校生が公式行事では利用しなくなり、せいぜい部活での利用に止まっている寮の存在意義をどのように考えるべきか、在校生にとつての寮の存在価値という点が重要であろうと考えます。

次に、墨水会会員の利用という観点から、「楽水寮」や「七生寮」で同期会・クラス会を寮で開催している期もあり、このような需要が増えれば寮の存在意義となるでしょう。

さらに、寮の利用料収入を増大させることが可能なのか、その方策として部活やOB以外の利用(例えば、地元と連携して、そこで開催されるイベント等に利用してもらうなど)を目指すべきなのか、一方を売却するとした場合には双方の寮の立地や設備の評価など、を検討することになろうと考えられています。

墨水会会員の皆様の多くは、いずれかの寮を利用された経験をお持ちだと思います。ご自身の経験から、あるいは後輩のために、これらの寮をどうすべきか、是非とも多数のご意見を墨水会の寮検討委員会宛てにお寄せ下さいませようお願いいたします。

墨水会OBであり副会長 竹鼻宏子様より七生寮にピアノの寄贈を受ける

平成28年9月15日(木)東京足立区の竹鼻氏の自宅よりピアノ輸送専用の車両にて、長野県軽井沢町の七生寮にヤマハアップライトピアノが搬送され、ホールの奥に設置されました。今後は音楽部の合宿や寮を利用される方々にもピアノ演奏が楽しめることと思います。

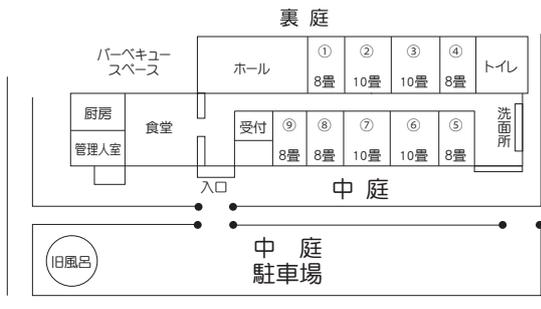
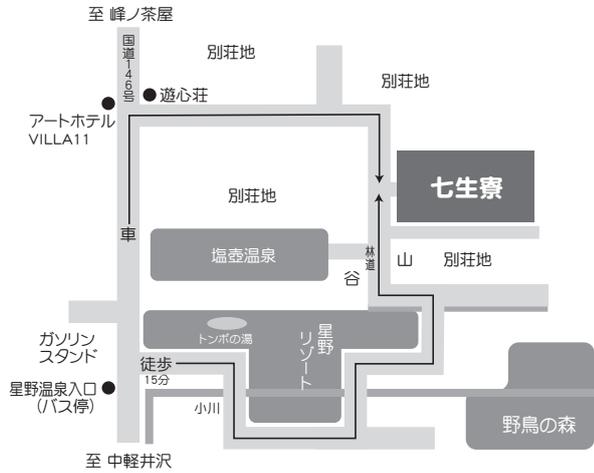
竹鼻様有り難うございました。写真は寄贈されたピアノです。





軽井沢 七生寮

七生寮



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字赤岩2148
 電車 東京駅より新幹線あさま号で1時間35分
 「軽井沢」駅下車、西武高原バス(草津温泉行)20分、
 又は中軽井沢駅よりバス10分、
 「星野温泉入口」より徒歩10分
 自動車 国道146号峰の茶屋方面
 アートホテルVILLA11
 城北信用金庫看板(遊心荘)右折1分

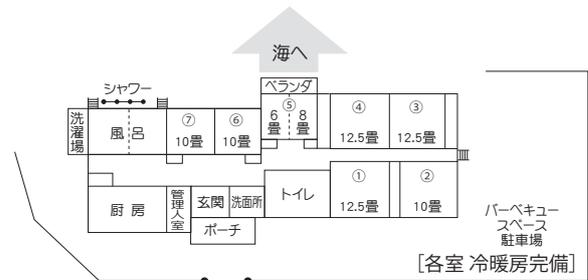
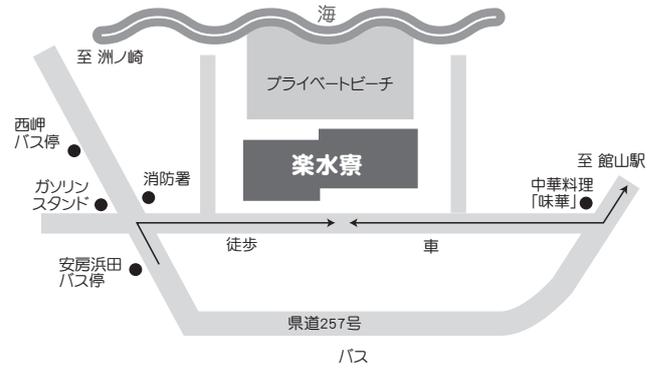
利用期間 7月末日から8月末日まで
申込方法 6月1日より学校にて予約受付を行います。
 学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
 夏期開寮中の申し込みは直接寮へ
 寮受付 ☎0267-45-5672 (谷澤・清澤)
料金 (一泊二食付き)
 大人(中学生以上) **5,000円**
 子供(小学生以下3才以上) **4,000円**
 素泊 大人 **3,000円**
 子供 **2,000円**
 休憩 **1,000円**(大人) **500円**(子供)

食事が用意出来ない場合がございますので、申込時に確認してください。



楽水寮 房総館山

楽水寮



〒294-0303 千葉県館山市浜田160
 電車 東京駅よりビューさざなみ号2時間13分
 内房線「館山」駅下車、JRバスにて30分、
 「安房浜田バス停」より徒歩5分
 バス 東京駅八重洲口より急行バス館山行1時間45分
 自動車 バス通り(房総フラワーライン)洲崎方面
 中華料理屋(味華)脇右折3分

利用期間 原則として通年で利用いただけます。
申込方法 夏期休業中は直接寮へ申し込んでください。
 寮受付 ☎0470-29-0127 (管理人 網代)
 その他の期間は学校へ申し込んでください。
 尚、夏期予約は6月1日より行います。
 学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
料金 素泊
 7・8月 大人 **3,000円**(中学生以上)
 子供 **2,000円**(小学生以下3才以上)
 休憩 **2,000円**(大人) **1,000円**(子供)
 7・8月以外 大人 **2,000円**
 子供 **1,000円**
 休憩 **1,000円**(大人) **500円**(子供)

食事については、寮で注文してください。(お弁当・刺身の舟盛等)
 尚、庭にてバーベキューを行う事が出来ます。(バーベキューセット
 使用料1台500円)又、厨房も利用出来ます。(使用料1日500円)

訃報



七中18回 昭和19年3月卒
フリーアナウンサー

小川 宏氏

平成28年11月29日 逝去される
享年90歳

略歴 墨田区東向島(旧東京府南葛飾郡寺島村)に大正15(1926)年4月17日生れる。

昭和15(1940)年府立第七中学校に入学、昭和19(1944)年同校を卒業、早稲田大学建築学科に入学、卒業後株式会社間組に入社したが、半年で退社しNHKの2次募集中に応募し合格、鶴岡、郡山などの地方局勤務を経て、昭和27(1952)年東京に転勤となり報道局でニュースなどを担当した。その後昭和30(1955)年より当時NHKの人気番組「ジュエスチャー」四代目の司会者として活躍し、番組を10年間務めNHKアナとしての知名度を上げた。

1965年1月にNHKを退社し、当時売出し中の民放フジテレビと専属契約を結び、1965年5月より始まったフジテレビ朝のワイドショーの総合司会を17年間にわたり務め、民放の番組での長寿記録を達成した。

このワイドショーでは恵まれない人々のために「歩の箱」(あゆみの箱)募金を募集していたので、我が墨水会では同窓会総会の際、参加したOBから寄付金を戴き、小川宏ショーの会場である牛込のフジテレビスタジオまで、数回に渡り募金をお届け寄付したとの思い出がある。

小川氏は、昭和47年の母校の同窓会が、赤坂ヒルトンホテル(現東急ホテル)で開催された時、総会の総合司会を務められたこともある。

氏は、平成8年頃鬱病に罹患され、8年間ほど病と闘い苦しい思いをされたが、幸い自身で病気を克服され、晩年はその体験記を新聞や雑誌に発表されたり地方に講演活動に出掛けたりして鬱病克服のノウハウの普及に務められ最近までその活動を続けられていた。氏の御逝去は我々にとって真に残念であり痛恨の極みであります。

小川宏氏のご逝去を悼み謹んで哀悼の意を捧げる次第であります。

墨田川3回 井上 常一 記



墨田川4回 昭和22年3月卒

墨水会副会長 三木 鐵也 氏

墨水会副会長 三木鐵也 君を偲んで



三木君(文中敬称略)は小生らと同じ戦争直後の昭和21年入学の旧制最後の府立第七中学生でした。戦災で校舎を焼失したため、1、2年は言問小学校に寄留して過ごし、3年から元の寺島に木造の校舎が新築され、そこに中学5年生以下の全生徒が移転しました。学校制度が新制となり旧制中学生はそのまま新制高校へもちあがり、4年目は都立墨田川高校1年生となりました。この時クラス替えがあり、三木と小生は同じC組に入り卒業までの交友ができたのでした。ともかく中高6年間の付き合いでしたから他のクラスの連中とも大分顔なじみとなり、また先生方とも親子か兄弟のような雰囲気になり、いま思っても懐かしい楽しい学生時代を過ごさせていだきました。

C組の生徒は別にそういう仕分けは行われていなかったと思いますが、就職組と

進学組が半々の感じでした。なんとなく教室の前の方と後方のグループに色分が出来てきて、その中間に三木、その前方に細江(写真家・文化功労者)、会田(元ソニーグループ役員)、島村(島村楽器会長)、梶原(カジワラ会長)など、後方には宮坂(高卒から日銀)、片根(歯科医)、三浦(不二精工社長)、藤原(染色業)などがいました。下町のせいで殆んどが商店や町工場の子弟で、三木も親父さんが両国で染料・顔料の卸商をされておりました。あまり目立たない三木でしたが前後のグループに親しまれ、何かというと三木!とかテッチャンとかいわれて頼りにされ、そのせいかまとまりのよいクラスといわれました。いざというときは前うしろの別なく団結し運動会の仮装行列では全校をうならせました。3年の時は3Cクラスでしたので当時有名だったサンシー避妊具の宣伝の真似をして怒られました。

卒業後のクラス会を続行しようというときに、クラスのメンバーが隅田川の東西に居ることにかけて、「言問会」と名づけましたが、其の幹事役を引き受けてくれたのが三木でした。親父さんも両国界隈の世話役で有名だったそうですが、若くして世界された父上の後を受けてテッチャンは明治大を中退、家業を継ぎました。親譲りの人付き合いのよい彼のことで、私たちまちにして地元の世話役を任せられ、また氏神であった牛島神社の地域総代として活

躍されました。小生の宮参りが牛島様でありましたのもご縁かなと思っております。また、いつ頃からかとは聞いておきませんでしたが、彼は観世流の謡いにのめり込み都内あちこちの「お謡いの会」に出没していたようです。小生も3年余り観世流の浅見真洲先生に教えていただいたことがあり、浅草寺の薪能の席で何度か顔を合わせたことがありました。或る時は小生が正月の余興に「鶴亀」を謡うことになって、彼に調子を見てもらったこともありまして。とにかく芸も顔も広く、下町の人懐っこさで小生の学友たちと飲み会で再会したり、小生を出汁に大いに楽しんでくれたようです。また校歌祭には率先して出陣し幸田露伴作詞、弘田龍太郎作曲の名歌をうたい、墨田川高校（七中）ここにありと大声を張り上げてくれたことも忘れることができません。

実は1年ほど前に、テナントの減少を理由に彼は両国のビルを売却し、西の富士見市へ越していたのです。近所づきあいのよかった彼にはそれが寂しくて仕方がなかったようです。健脚の彼はどこへでも出かけていたのですが、さすがに墨水会の会合には夜には遠すぎるなどこぼしていましたが。上野駅には何度か送って行ったのでした。

彼の急逝の報を受けたのは（今年）5月に入ってからでしたが、すでに荼毘に付された後でした。後から夫人に伺ったところでは4月の末に、昔の商売お取り引き先の皆さんと一年ぶりの宿泊旅行で新潟の貝掛温泉へ出かけたそうです。彼の寂しさを慰める久しぶりの楽しい宴会だったことでしょう。宴終わって皆で湯に入ったところで、独り残るよと言ひ、その後、他界されてしまった姿を発見されたのだそうです。ゆつたりと温泉に抱かれて浄土に導かれたものと、小生は推察しています。享年83歳、昨日まで、はきはきと元気にしていたのにと、心から残念に思い、ご冥福を祈っている次第です。

墨田川4回 梶原 徳二 記

七生寮視察旅行報告

墨田川15回 加藤 多恵子



平成28年8月21日、恒例の七生寮視察旅行が行われました。出席者は18名で各自、三三五五集合し、トンボの湯や塩壺温泉で疲れをいやしたあと、和気あいあいのうち会食が始まりました。

二寮検討委員会の話し合いもあり、寮の利用促進に力を入れ、学生の利用復帰への努力が必要等の意見がありました。

毎年、七生寮を訪問する度に閑静な環境の中、緑につつまれた日々を過ごせる事に感謝しています。

1人でも多くの皆様に利用していただければ、今後の寮維持のために大いに力になる事と存じます。

美汀会のご挨拶



美汀会会長

林 清美

こんにちは、今年度美汀会の会長を務めています、林清美です。

平成28年度墨水会総会、大変おめでとうございます。

9月に有りました、七高祭では墨水会の皆様には、大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年も多くの中学生が七高祭に来てくれました。その姿を見て私は3年前に娘と学校説明会に行った事を思い出しました。

私と娘が廊下を歩いていると、一組のご夫婦とすれ違いました。その時ご主人が奥様に「この学校の生徒は、品の良い顔をしていないか？」と話をしているらしやいました。

私も以前より七高の生徒はキチンと育てられた、品の良い子ども達だと感じておりました。

これも長い年月を掛けて、先輩である墨水会の皆様より受け継いだ、大切な伝統の一つであると思います。

来年の3月卒業式その日まで、皆様の後輩である子ども達を大切にお預かりすることをお約束いたします。

どうかこれからも子ども達・学校同様に美汀会活動にも、お力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と墨水会の更なるご発展を祈願いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は大変おめでとうございます。



墨田川16回

古希クラス会の報告

佐野 裕子

平成27年11月3日(祭)、午後一時から向島百花園で墨田川高校第16期A組の古希クラス会が開催されました。同級生の約半数が出席しました。遠い人では石塚君が米国カリフォルニアからの参加です。数十年振りにお会いする人も多く、順番に自己紹介形式で人生を語り合っており、和やかな時間を過ごしました。その後庭園へ出て、歩きながら記念写真を撮ったのですが、集団がバラけてしまい、全員が一同には写りませんでした。

それにしても墨田区の変貌振りには驚きました。私は京成曳船駅に着いてから、母校の一角が全く解らなくて迷子になってしまいました。45分位掛けてやっと墨田川高校を見つけ出し、中に入って用務員室で向島百花園の方角を教わろうと思ったのですが、用務員室も見つからない。ウロウロ校内を歩き回っていたら、「器楽合奏」部の練習に来ていた現役に「怪しい侵入者」と見咎められ、事情を話し、咄嗟に「私50年前の卒業生なのです。校歌覚えてますよ。」と言って「スミダの川は我が師なり……」と歌い始めました。そうしたら現役も私を大先輩だと認めてくれて、中の一人の女子生徒が私を百花園まで案内してくれました。あの日は東京校歌祭の日でもあり、同じ頃私は母校の中で、身分証明のため校歌を歌っていたのです。校歌に救われました。

後日談として古希クラス会の4日後の11月7日(土)に、私は再び第一腰権庄迫骨折をして、11月11日(水)に救急車で一橋病院に緊急搬送され、12月3日まで23日間入院しました。今は週2回ヘルパーさんに来て頂いて、45分間家事を手伝って頂いています。外出する時は、1カ月600円でレンタルした歩行器でソロソロ歩いています。あの古希クラス会の日の元氣さは全然ありません。

それと同級生の加藤幸雄君が12月17日に病死されたそうです。関根恭一君から連絡がありました。古希クラス会には松葉杖をつけて出席されていたのに、その1カ月後には御他界とは痛ましい事です。あの古希クラス会は最高でした。幹事の関根恭一君と長岡國廣君に心から感謝いたします。

一橋病院から退院して早1カ月半、幹事さんから送られてきた写真CDを本日もやっとコンビニで現像しました。11月3日の皆が元気で集っていたあの日が写っています。何か遠く、遠く大昔の事のような気がいたします。谷澤先輩、竹鼻先輩初め皆様に、宜しくお伝え下さい。



墨田川18回

昭和41年卒 A組クラス会開催

小川 浩平

3年A組クラス会は2007年、向島百花園内の御成座敷で行って以来9年ぶりに開催。

きつかけは、10月1日上野東天紅にて開催された墨水会総会に卒業50周年を迎えた記念会員優遇特別参加費で懇親会に参加できることになり、この機会を捉えてクラス会を行うことにいたしました。

墨水会+クラス会でもクラス会のみでも出席できるように、クラス会も東天紅で行うことといたしました。

今回墨水会総会からの参加12名とクラス会からの参加8名の20名が参集。古希が目前となった我々ですが、高校時代の懐かしいそれぞれの想い出や、栃木や静岡県から参加した人など現況報告等、高校時代の感覚が甦り時間が経つのも忘れるほど盛り上がり、大多数の人が2次会まで参加いただきました。

今年度総会記念会員を迎えるS32年、42年卒業の皆さんも墨水会総会を機に、クラス会を開催されたいかがでしょうか。



七高祭(文化祭)に参加して

墨田川 15回 谷澤 尚樹

今年度の七高祭(文化祭)は九月十日、十一日の土曜、日曜両日で開催されました。墨水会が参加させていただいて三回目になります。今回も卒業生(特に若いOG・OB)在校生、先生、美汀会の人達に墨水会の活動を知っていただけよう平素の活動や、今までの活動状況について発表する事にしました。第一には墨田川高校(財七星会)が所持している七生寮、樂水寮の二寮についての資料を墨水会の展示会場となっている一階エレベーター前のピロティの周りの壁に展示しました。又ビデオで校歌祭の映像を流し、卒業生達が元気に校歌と応援



歌をうたっている様子を紹介しました。受付では、墨田川高校歴史選択クイズ(在校生卒業生の先生方が作られました)を実施し、挑戦された方全員に抽選で墨田川31回卒業の宮部みゆき(矢部)さんの単行本やお菓子をプレゼントしました。二日間の開催で全ての本がなくなり今回も盛況のうちに終了しました。墨水会の文化祭参加に関しては生徒部の佐々木先生より助言、ご助力をいただきました事を報告申し上げます、感謝申し上げます。尚今回行いましたクイズを次に載せましたのでチャレンジしてみてください。

Q1. 白黒の新聞記事にご注目。

かつて沼津で行われた水泳合宿の様子
が、写真付きでレポートされています。この写真の頃の墨田川高校は、() と呼ばれていました。その後、七高→墨田川高校と名前を変えながら、現在まで続く約90年の歴史を紡いできたのです。

Q2. 墨田川高校は2つの寮を持っています。

一つは、目の前に広がるプライベートビーチで思いのままに房総の海を満喫できる、館山の()寮。もう一つは、大人の避暑地として不動の人気を誇る軽井沢にある()寮。

Q3. またまた寮からの出題。

写真展示の中には、寮の周辺にある豊かな自然や奥深い歴史にまつわるものもあります。その中でも目を引くのは、あざやかなブルーがまぶしい館山湾の海中をとらえた写真。そこは()の北限なのです。こんなきれいな海が東京から約2時間の旅で味わえます。

一般財団法人七星会と墨水会



七星会理事 墨田川15回
谷澤 尚樹

生徒達が二寮を使用しなくなつて三年がたちましたが、これから七生寮、楽水寮の維持管理をどのようにしたら良いものか関係者は悩んでいます。墨水会では山内副会長を座長として寮検討委員会を立ちあげ、昨年より何回か会議を開き検討してきました。今年中には結論を出し墨水会としての意見を(七生会(学校関係、美汀会、墨水会)で形成に示す事が出来る事と思っています。

さて私が墨田川高校に赴任して、今年で三十年(退職して十年)になります。思い起こすと昭和六十二年当時二寮には管理人さんが常駐しており原則的に二寮共に通年開放(七生寮は五月より十月末日まで)されていました。七生寮では夏期休業中は、一週間交替で先生方が在寮し、宿泊客のお世話(食事以外)をしていました。楽水寮では臨海学校期間は教員が在寮しましたが、その他の期間は管理人さんに全ての仕事をお願いしていました。七生寮の管理人さんは長い間萩原さんをお願いして、良くやっていたのですが軽井沢にお店を出したいという事で平成四年におよめになりました。その後近くで民宿を経営している竜野さんをお願いする事になり、開寮期間は七月末より八月末日で契約する事になりました。竜野さんには約五年間お世話になりましたが、開寮経費が年々増加したため平成九年で契約を終了し、その後は定時制の給食業務会社の(株)レクトンをお願いする事になりました。尚、先生方による七生寮当番制度は平成八年度で終了し全ての業務を(株)レクトンにお願いしました。(株)レクトンとの契約は平

成二十四年まで続き、その間おいしい食事を提供していただき好評でしたが段々経費が高くなりました。その後業者を色々あたりましたが適当な業者が見あたらず七星会で直接運営する事になり現在に至っております。

又楽水寮の管理人さんも長い間近所に住む田中夫妻にお願いしてききましたが、平成六年におやめになりました。その理由は当時の事務室長(七星会常務理事)の寮を閉めるという話し(七星会で決定した事項ではなく室長の個人的意見)によるものでした。その後七星会として慰留しましたが意志がたく再契約する事は出来ず、一年間は管理人不在という事態になり楽水寮は荒れる事になってしまいました。七星会では館山市のハローワークに相談し、何人かの方と面接した結果堀川さんと契約をかわしました。平成十一年に健康上の理由で四年間でおやめになり、その後を渋川さんをお願いしましたが寮を私的に利用する等、問題が出たため契約を解除し、平成十四年からは現在の管理人の網代夫妻をお願いしております。網代さんは以前民宿を経営しておりその経験を生かして一生懸命仕事をしていただいております、七星会にとつて大変助かっております。

さてここで生徒達の寮使用についてふれさせていただきますが、林間学校、臨海学校という学校行事として平成元年までは二泊三日の日程で実施され二寮を使用してきましたが、その後平成十三年までは、教員の負担が大きという理由等で二泊二日の使用になりました。平成十四年からは、一泊二日では移動教室(林間臨海学校)として内容不足ではないかという理由等で二泊三日で実施される様になりました。近年学校の方針で使いがたが変りました。近年学校等で寮が使用される様になりましたが平成二十六年になり寮の使いがた

が悪いか教員の負担が大きい等の理由で使用しなくなり現在に至っております。

(株)七星会は昭和二十五年に楽水寮建築に伴い教育の振興を援助すると共に、職員、生徒、関係者の福利厚生を増進するという目的で設立されました。その運営は学校が主体で総務委員会を中心とした寮運営委員会を組織し、美汀会(PTA)の援助を得て(毎年寄付金として五百万円程度入学時に集めていた)行われていました。流動資産も三千万円を超え健全経営がなされていきましたが、昭和六十三年に七生寮の増改築によって二千万円以上がつかわれてしまい(増改築に二千万円かける必要があったのかと疑問を持つ人が多くいました)七星会の運営のあり方を変えた方が良くという墨水会の意見が大きくなり、七星会に墨水会も積極的にかかわつていく様になりました。その後平成五年に事務室長によりこのままでは寮の経営は三、四年で破綻してしまうので楽水寮を閉鎖すべきではないかとの意見が出されました。墨水会では七中十五回の税理士赤塚さんに寮経営診断を依頼し、色々調査していただいた結果、学校、美汀会、墨水会三者が協力してやっていけば二寮の経営は持続出来るのではないかとこの事になりました。この年より墨水会からも毎年二百万円を七星会に寄付するようになり現在までに四千五百万円以上の寄付をいたしました。現在流動資産は四千万円を超えております。この間財団法人七星会は一般財団法人七星会になり、健全運営がなされてまいりましたが、生徒が利用しなくなり、美汀会からの寄付も無くなった現在、これからの二寮の経営については寮の老朽化も考え大いに悩んでいる所です。

思い出すままに、私なりに(株)七星会や二寮について書かせていただきました。記憶違いがあるかもしれませんがご容赦願います。

平成28年度(第68回生他)大学・短大合格状況

墨田川32回 伊藤 静市

国公立大学

合格延べ人数

大学名	現役	過年	計
北海道大		1	1
埼玉大	2		2
千葉大	7		7
東京工業大	1		1
電気通信大	1		1
東京海洋大		1	1
埼玉県立大	2		2
首都大学東京	6		6
大阪大		1	1
富山大	1		1
琉球大	1		1
国公立大学計	21	3	24

大学校

合格延べ人数

大学校名	現役	過年	計
防衛大	1		1

私立大学

合格延べ人数

大学名	現役	過年	計
早稲田大	4		4
慶応大	3		3
上智大	14		14
東京理大	18	3	21
上記4大学計	39	3	42
国際基督教大	1		1
関西学院大	1		1
立命館大	11		11
上記3大学計	13		13
明治大	27	3	30
青山学院大	13		13
立教大	18	1	19
中央大	13	1	14
法政大	41	2	43
学習院大	13		13
上記6大学計	125	7	132
亜細亜大	7		7
跡見学園女子大	1		1
大妻女子大	12		12
関智国際大	1		1
学習院女子大	2		2
神奈川大	1		1
関東学院大	1		1

大学名	現役	過年	計
神田外語大	2		2
北里大	3	2	5
共栄大学	1		1
京都産業大	1		1
京都造形芸術大	2		2
共立女子大	5		5
杏林大	4		4
国立音楽大	1		1
工学院大	3		3
國學院大	8		8
国土館大	10		10
駒澤大	15	2	17
産業能率大	1		1
実践女子大	1		1
芝浦工大	23	4	27
順天堂大	5		5
昭和女子大	6		6
女子栄養大	2		2
成蹊大	11		11
成城大	10		10
清泉女子大	2		2
聖徳大	5	1	6
専修大	6		6
創価大	2		2
大正大	9	1	10
大東文化大	1		1
拓殖大	11		11
玉川大	4		4
千葉工大	13	1	14
中央学院大	1		1
帝京大	8		8
帝京科学大	7		7
帝京平成大	8	1	9
桐蔭横浜大	1		1
東海大	2	6	8
東京医療保健大	5		5
東京家政大	18		18
東京経大	4		4
東京工科大	10	2	12
東京工芸大	2		2
東京女子大	3		3
東京女子体育大	1		1
東京成徳大	3		3
東京電機大	13	6	19

大学名	現役	過年	計
東京都市大	6		6
東京農大	10		10
東京福祉大	1		1
東京未来大	2		2
東邦大	3	2	5
東洋大	97	3	100
獨協大	31		31
日本大	75	10	85
日本工業大	2		2
日本社会事業大	2		2
日本獣医生命科学大	1		1
日本女子大	9		9
日本女子体大	1		1
日本体育大	4		4
人間総合科学大	1		1
文教大	15		15
文京学院大	4	2	6
武蔵大	6		6
武蔵野大	4		4
武蔵野野大	3		3
明治学院大	9		9
目白大	10		10
横浜薬科大	1		1
立正大	19	2	21
龍谷大	2		2
流通経大	2		2
了徳寺大	1	1	2
麗澤大	8		8
私立大学計	607	46	653

短期大学

合格延べ人数

短大名	現役	過年	計
青山学院女短大	2		2
女子栄養大短大部	1		1
桐朋学園芸術短大	1		1
立教女学院短大	2		2
短期大学計	6		6

現役の欄は平成28年3月に卒業した第68回生の実績です。過年の欄はそれ以前に卒業した者で、連絡のあったもののみ計上してあります。

平成28年12月時点での
現3年次生(第69期生)の
主な進路状況

これまでに指定校推薦、公募推薦、AO入試等で、次の大学・短大に合格者が出ています。大学入試センター試験(1月14日・15日)後、私立大学の一般入試、国公立大学の個別試験が始まりますので、合格者数はさらに増えていきます。(カッコ内は複数合格者がいる学校の人数)

◎国公立大学(計3名)
 东北大学 理学部
 東京学芸大学 教育学部
 首都大学東京 健康福祉学部

◎私立大学(計39名)

慶應義塾大学・上智大学(2)・東京理科大学・早稲田大学・青山学院大学・学習院大学・中央大学・法政大学(2)・立教大学・実践女子大学・芝浦工業大学・順天堂大学・昭和大学・女子栄養大学・聖徳大学・専修大学・大正大学・東京医療保健大学(2)・東京家政大学・東京未来大学・東邦大学・東洋大学(4)・東洋学園大学・獨協大学・日本大学・文教大学(2)・文京学院大学・星薬科大学・武蔵野音楽大学・明治学院大学(2)・了徳寺大学

◎短期大学(計1名)
 青山学院女子短期大学

平成28年度 部活動報告

墨田川32回 伊藤 静市

運動部19部・文化部18部のクラブが「文武不岐」の基、活発に活動しています。

運動部

【剣道部】

- ・東京都高等学校春季剣道大会兼関東大会団体都予選
男子団体 4回戦進出

・東京都春季大会【春季大会】

- 学校対抗 女子総合 7位
- 男子50m自由形 2位
- 男子200m平泳ぎ 優勝
- 女子200m自由形 3位

【サッカー部】

- ・2016年高校サッカーインターハイ東京予選
2回戦進出

【卓球部】

- ・インターハイ大会予選団体の部 ベスト32

【柔道部】

- ・関東大会 東京都予選 ベスト32
- ・全国高校選手権大会
1支部予選 男子団体 9位
都大会出場決定
- ・全国高校選手権大会
1支部予選 男子個人 7名都大会出場決定

【軟式野球部】

- ・平成28年秋季東京都高等学校軟式野球大会
ブロック予選E 決勝進出

【男子バスケットボール部】

- ・関東大会予選 ベスト32
- ・インターハイ予選 ベスト32

【水泳部】

- ・全国高等学校総合体育大会
男子100m平泳ぎ 女子50m自由形 女子400mフリーリレー
女子800mフリーリレー 出場
- ・関東高等学校水泳競技大会
男子50m自由形 男子1500m自由形 男子100m平泳ぎ
男子200m平泳ぎ 女子50m自由形 女子100m自由形
女子200m自由形 女子100mバタフライ
女子400mフリーリレー 出場

【ボート部】

- ・関東大会 男子ダブルスカル 準決勝進出
- ・関東選抜大会 女子舵手付きクォドルプル 準決勝進出

文化部

【音楽部】

- ・第83回NHK全国学校音楽コンクール 高等学校の部
東京都予選B 銅賞

【吹奏楽部】

- ・第56回東京都高等学校吹奏楽コンクール
A組 金賞・B1組 金賞
- ・第40回東京都高等学校アンサンブルコンテスト
木管八重奏 金賞・金管八重奏 金賞

【茶道部】

- ・東京大茶会(浜離宮恩賜庭園) 高校生茶席 担当

【写真部】

- ・第39回東京都高等学校文化祭写真部門中央大会 入選3名

第20回 寄付金一覽

平成28年1月～平成28年12月末日

会計 墨田川15回 谷澤 尚樹

今回も七十九名の方々と一団体(コカコーライーストジャパン株式会社)より百二十七万三千七百四十円のご寄付を頂戴致しました。今年度から二寮維持に加えて学校運営への協力をすべく寄付を募る事になりました。今回も(財)七星会に百万円を寄付しました。又生徒達のクラブ活動の支援として(インターハイ等の遠征費)三十万円を学校に寄付致しました。以上ご報告申し上げます。今後共ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

府立第七中学校 第10回	飯島 俊夫	都立第七中学校 第18回	毛利 英三 氏橋 幸次郎 恵畑 欣一 大久保 喜市 大曾根 弘一	都立第七高等学校 第1回	海谷 利宏 長谷川 鉄夫 牛山 淳一郎	都立墨田川高等学校 第3回	青木 優夫	第8回	関 亨	第13回	横井 正男	第15回	加藤 多恵子		
第20回	内田 勝久 伊藤 信夫 青木 政一郎 大木 善夫	第23回	斎藤 淳 荒川 博	第5回	釜井 節夫 石橋 健治朗 内田 博万	第7回	西木 康雄	第6回	宮田 雄次	第12回	田中正昭	第17回	田中 久和		
第4回	井上 常一 杉浦 成	第10回	島村 元紹 島山 幸男 木塚 靖夫 米山 徹 内田 博	第9回	小原 千恵子	第11回	黒川 保太郎	第14回	山澤 一喜	第16回	泉妻 秀一	第19回	松島 茂		
第2回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第3回	高橋 敏昭 内田 忠男 竹村 克男 崎山 義正	第10回	程田 豊治 比留間 光子 中村 博昭 上丸 幸久	第11回	富田 角次郎	第12回	三宅 正高	第13回	富田 正昭	第14回	佐野 裕子		
第1回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第2回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第3回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第4回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第5回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第6回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第7回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎	第8回	須藤 健児 加藤 啓進 大澤 信幸 大木 一郎

(株)コカコーライーストジャパン
旧職員
有賀 康修
宮本 勇人

編集後記

2017 (平成29)年

「墨水会だより第24号」

昨年は熊本地震、糸魚川大火と不幸な出来事がつづき会員の皆様方にもお知り合いの方などが被害にあわれた方もいらっしゃると思います。

今年はこの様なことが再びおこらぬことをいりながら広報委員一同第24号「墨水会だより」発行に取り組んでまいりました。

又、いつものことながら本号の発行にあたり原稿等御協力いただきました方々にお礼申し上げますとともに今後とも御意見などございましたら是非とも御連絡いただきたくお願い申し上げます。

- 広報委員長 墨田川10回 難波 直人
- 広報委員 墨田川3回 井上 常一
- 墨田川13回 横井 正男
- 墨田川15回 竹鼻 宏子
- 墨田川15回 加藤多恵子
- 墨田川15回 谷澤 尚樹
- 墨田川17回 清澤 健一

「墨水会だより」

第24号

発行：墨水会事務局
 発行人：泉妻 秀一
 編集人：難波 直人
 墨田川高校内墨水会事務局
 〒131-0032
 墨田区東向島3-34-14
 電話：03-3611-2125(代)
 事務局代表：谷澤 尚樹